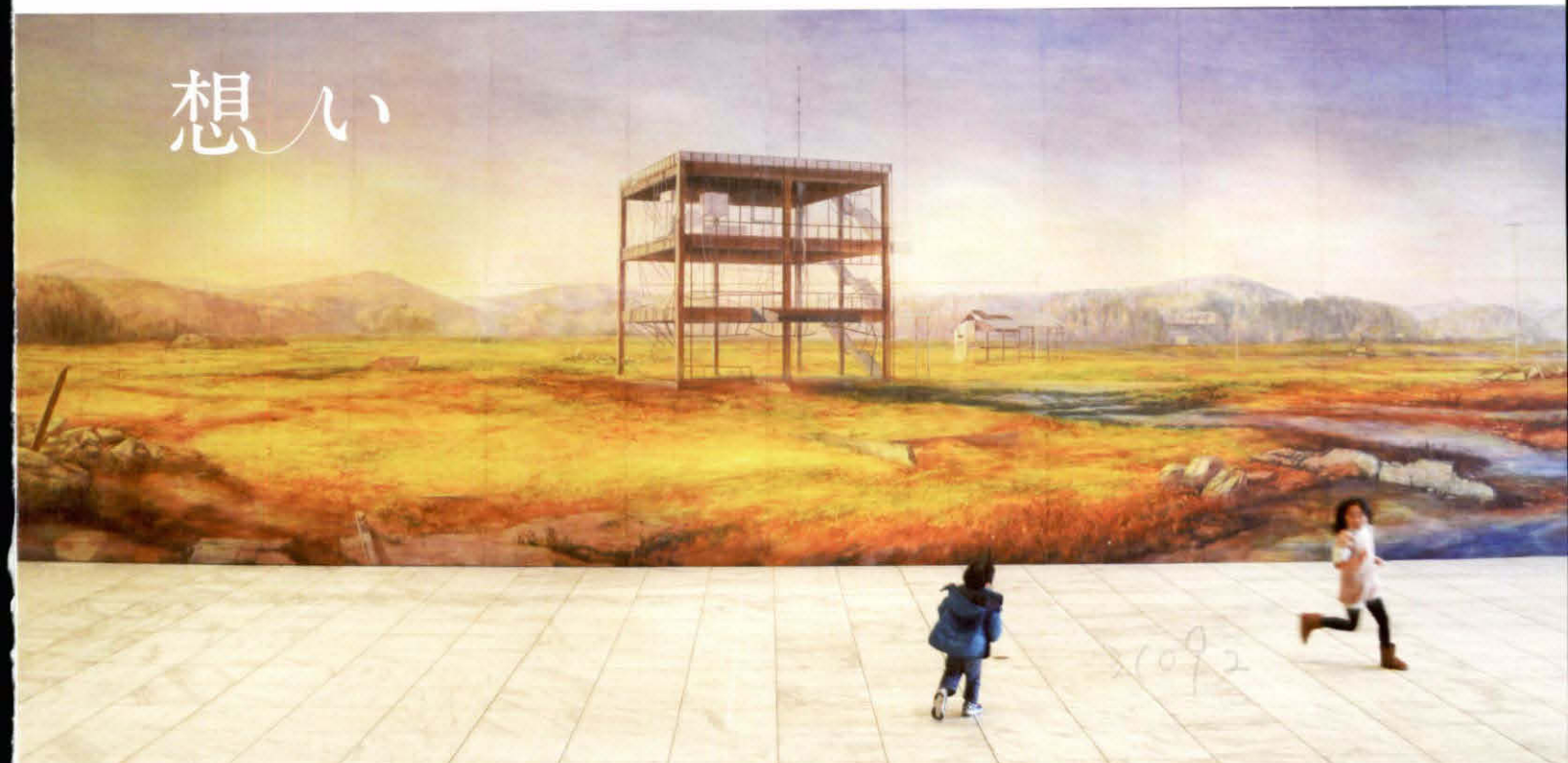


かさね

がさねの

想い



2013 8.16 (金) — 8.18 (日) [ 入場無料 ]

せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア

加川広重巨大絵画「南三陸の黄金」と共に かさねがさねの想い2

— 被災地の今を描いた巨大画。そしてそれぞれの想いを表現するアーティストたち。

主催：かさねがさねの想い2実行委員会、仙台市市民協働推進課（18日「伝える学校」オープンスクール）

協力：仙台美術協会、仙台市市民協働推進課、宮城県詩人会 後援：（公財）宮城県文化振興財団、（公財）仙台市市民文化事業団

助成：アート・サポート・センター神戸

お問合せ tel 070-6659-4370 e-mail kagawa@senbi-art.com

# 被災地の空に響き渡るような、演奏、歌、朗読

被災地の今を描いた大作「南三陸の黄金」。震災後活動を続けてきた沢山のアーティストたちがこの作品の前に集い、それぞれの想いを表現していきます。ここで皆様と共にかさね合わせる想いが、私たちの故郷が再生へと向かう、精神的な活力になることを願います。

8.16 (金)


8.17 (土)

8.18 (日)


13:00 - 仙台フィルハーモニー管弦楽団 カルテット・フィデス (弦楽四重奏) 「音楽で振り返る復興の軌跡」	13:10 - 詩劇的朗読 「こころの駅」	13:00 - 詩劇的朗読 「こころの駅」
14:10 - 詩劇的朗読 「こころの駅」	14:00 - 宮城県詩人会 「言葉、託されてあること - 宮城県詩人会朗読 -」	13:50 - 劇団仙台ローズ 「おんなたちの見た3.11 ~被災者の見た東日本大震災~」
15:00 - 仙台市立金剛沢小学校 合唱団 仙台市立西多賀中学校 合唱愛好会 "Ami Choeur" Junior&Youthコーラス "Raw-Ore" 「君が未来だから ~ありがとうをつないで ふるさとから一歩ずつ~」	15:40 - 只野 展也 (ミュージシャン) 「彼方への響き」	14:40 - 松岡 万希 (ソプラノ)・高橋 侑子 (ピアノ) 「歌に想いをよせて」
15:40 - 吉田 ユーシン (ブルースハーピスト) 「絵とハーモニカ&復興と友好 vol.2」	16:10 - チーム・おだづもっこ 「南三陸の詩 - 思いはやがて歌になる」	15:30 - 村上タカシ (伝える学校専任講師 / 一般社団法人MMIX Lab) 佐藤 正実 (伝える学校専任講師、NPO 法人20世紀アーカイブ仙台) 加川 広重 (アーティスト) 〈仙台市震災メモリアルプロジェクト〉 「伝える学校」オープンスクール 主催：仙台市市民協働推進課

## Profile [出演者プロフィール]


**詩劇的朗読** 松尾 正信 Masanobu Matsuo  
絵が変わった。  
ホネだけに成って  
一行を詰すのが詩人だと、云う  
ウタが聞こえてくる。  
一神戸御影町、出身一  
光が彩りを奏する時である




**詩劇的朗読** 襲田 美穂 Miho Osoda  
栃木県出身。オーストラリアで舞台表現に出会い、大野一雄舞踏研究所にて舞踏を学ぶ。国内外で公演、多ジャンルの作家とのコラボレーションも多い。昨年の『かさねがさねの想い』出演に引き続き、今年も、現地を見て感じた様々な想い、特に、天から見守ってくれている、あたたかさや慈しみを身体に宿して、舞いたいのです。




**詩劇的朗読** 小森 俊明 Toshiaki Komori  
作曲家、編曲家、ピアニスト。あの喪失はあまりにも大きく、紡がれてきた物語はあまりにも人間的だ。今まで規模が災後の想いを音符に託してきたものの、言葉には到底託せない。それでも、この公演への参加を、復興途上の地、ならびに人々を未来進行形で眼差す為の糧としたい。(略歴)東京藝術大学を経て同大学院修了。作品は国内外で演奏されている。



**詩劇的朗読** 佐々木久美子 Kumiko Sasaki  
きっと皆さんもそうであるように、2011年3月11日を境に私の生き方は大きく変わりました。嘘がつかなくなったのです。それは、日常生活も舞台も同じです。そして日々自分の思ったことが実現しています。今日も私の思った通りに実現するでしょう。Theatre Group "OCT/PASS" 在籍。お話し会「がじゅまるの樹」主催。女優。




**詩劇的朗読** しのくに Shinokuni  
音楽ユニット。  
色メガネをはずし、ただただ感じる。むずかしいことだけに常にそうありたいと思っています。こころの駅、どんな色がかさなり合っているのでしょうか。流れる音を紡ぎます。  
<http://www.shinokuni.com/>




**「道與本線」** 松尾 正信  
何処から来て何処まで行くのか、何時から何時まで、と長旅を共にしているはらからに尋ねるまでもなく、ひととせ後の再会を喜び合えるのも只今「こころの駅」に降り立ったから。  
さて、二枚目の佇まいながら、たそがれ間近の景観は塵埃として我等が文明の末路を明示しているのだから、「それだけではない」と此の舞台に役者は揃って置かなくては、無人駅等ない。  
※美術スタッフ「山の神」面・門馬加奈、扇衣・伊東亜沙子


**只野 展也** Nobuya Tadano  
1961年生まれ。作曲、編曲家。キーボード、ベースプレイヤー。音楽スタイルはジャンルを問わず、管弦楽曲、ロックユニット、劇音楽、ミュージカルなど多岐にわたり独特の色彩感をもつ音の世界を表現する。メディア系音楽の制作も意欲的にこなすNHKスペシャルなどのテレビ番組やCM音楽などをこれまで多数制作している。




**幹 Miki**  
尾崎豊、浜田省吾など大物アーティストを手掛けた音楽プロデューサー・須藤見氏により才能を磨かされる。宮城県蔵王町在住。雄大な自然に囲まれながら日々音楽活動を展開している。「もがき」といっしょに同じく歩む声、光の当たらない暗闇まで伝えたいと願う唄うステージは初めて耳にした人をも魅了させる。最近では仙台ゆかりの仮リアージュアンビエラのテレビCMで「ハルル夜」がオンエアされるなど活動の幅を広げつつある。




**吉田 ユーシン** Yushing Yoshida  
1954年岩手県出身。1978年武蔵野美術短期大学商業デザイン科卒業。1986年F1Hジャパンハーモニカコンテスト・ブルース部門優勝。1993年ワールドハーモニカチャンピオンシップス(於独)優勝。全日本ハーモニカ連盟常任理事。10ホールズハーモニカ(ブルースハーブ)プレーヤー&インストラクターとして、東京や仙台にて活動。



**伝える学校** 村上タカシ Takashi Murakami  
国立大学法人宮城教育大学  
2009年各種メディアを融合させ、アートと地域を結び創造的芸術活動を行う団体「MMIX Lab」を発足。震災以降、津波でねじ曲がった公共物等を震災を記録中。阪神大震災を経験、東日本大震災以降、高橋侑子氏と共に各地を歌で繋ぐ活動を広げる。8月19日仙台市シルバセンターにてコンサート開催予定。  
<http://mmix.org>




**伝える学校** 佐藤 正実 Masami Sato  
NPO法人20世紀アーカイブ仙台  
2009年6月に設立したNPO法人。大正・昭和時代の仙台を伝え、映像・写真・音楽を記録保存し、後世に残すことを目的とする。震災後は市民とともに「3.11震災アーカイブ活動」を開始。2012年3月震災記録集「3.11キヨクのキヨク」発刊をはじめ、Web、ポスター等で震災の可視化や、写真をもとにした公開サロンで後世に残す活動に取り組む。




仙台市 震災メモリアルプロジェクト **「伝える学校」** オープンスクール **申込 不要**  
9月から、仙台市とMMIX Lab、20世紀アーカイブ仙台、RE:プロジェクトの協働事業による「市民ひとりひとりが震災メモリアルを考える」ためのプロジェクト「伝える学校」が始まります。この日はプレ講義を開催し、作品を前に「震災を伝えること」について会場の皆さんと一緒に考えます。  


「伝える学校」オープンスクール ■主催 仙台市市民協働推進課 ■ゲスト 村上タカシ(伝える学校専任講師/一般社団法人MMIX Lab)、佐藤正実(伝える学校専任講師/NPO法人20世紀アーカイブ仙台)、加川広重(アーティスト) ■司会 田澤純子さん(仙台市市民協働推進課) 問合せ 一仙台市市民協働推進課 ■電話 022-214-8002 ■メール sim004100@city.sendai.jp

**松岡 万希** Maki Matsuka  
神戸市出身在住のソプラノ歌手。京都市立芸術大学卒業。東京藝術大学大学院オペラ専攻修了。リサイタル、オペラ、コンサートソリストとして各方面で活躍中。阪神大震災を経験、東日本大震災以降、高橋侑子氏と共に各地を歌で繋ぐ活動を広げる。8月19日仙台市シルバセンターにてコンサート開催予定。



**高橋 侑子** Yuko Takahashi  
宮城県出身。  
京都市立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業。  
「麗道川」は松岡万希によって、京都、神戸、東京、宇都宮、など各地で演奏される。現在、作曲活動のほかオーケストラアレンジやコンサートなどの伴奏も務める。6月まで河北新報夕刊のまちかどエッセーも執筆。



**「RE:プロジェクト」とは**  
東日本大震災により被害が甚大で居住が困難となっている地域を対象に、その地域に根付いてきた暮らしや文化、伝統を地域住民のオーラルヒストリーからあぶり出し、可視化する事業。フリーペーパー「RE:プロジェクト通信」の発行や、地域の思い出とともに食文化を振り返る「オモイデゴハン」等に取り組む。(主催：仙台市、(公財)仙台市市民文化事業団)



**カルテット・フィデス** **松山古流** Koryu Matsuyama **ヴァイオリン**

福島県喜多方市出身。これまでに菊地健夫・外山滋・松本善三の各氏に師事。東京音楽大学在学中より、早川正明指揮・新ヴィヴァルディ合奏団にヴァイオリン・ヴィオラ奏者として100回を超える公演及びレコーディングに出演。1983年宮城フィルハーモニー管弦楽団(現在の仙台フィルハーモニー管弦楽団)に入団。同団のヴァイオリン奏者を務める傍ら、中新田パッハ・ホール音楽院講師を務める。



**カルテット・フィデス** **御供 和江** Kazuo Mitomu **ヴァイオリン**

国立音楽大学音楽学部器楽学科ヴァイオリン科卒業。ヴィオラを渡辺啓三氏に師事。1995年仙台フィルハーモニー管弦楽団入団。1996年アフィニス夏の音楽祭参加。現在、CHAMBRE dixのメンバーとして数々の演奏会に出演。オーケストラ活動の他、室内楽の演奏や後進の指導に積極的に取り組んでいる。



**カルテット・フィデス** **熊谷 洋子** Yoko Kumagai **ヴァイオリン**

宮城学院女子大学音楽科卒業。ヴァイオリンを三浦二郎、渋谷由美子、和波孝福、室内楽を故熊田為宏、川崎操、マルティン・オスタータウクの各氏に師事。86年、宮城フィルハーモニー「協奏曲の夕べ」出演。88年、ジョン・トリサイトを指揮。93年よりトリオ・ドゥムカとして7回のリサイタルを、2004年にカルテット・フィデスでリサイタルを催す。



**カルテット・フィデス** **石井 忠彦** Tadahiko Ishii **チェロ**

山形大学教育学部特設音楽科卒業。チェロを黒沼俊夫、指揮法・オーケストラを前田幸市郎の各氏に師事。山形県立寒河江工業高等学校他2校の音楽講師を務めた後、山形交響楽団を経て、79年、宮城フィルハーモニー管弦楽団(現仙台フィル)入団。

仙台フィルハーモニー管弦楽団 **カルテット・フィデス** 仙台フィルハーモニー管弦楽団員4名で構成される弦楽四重奏団。その活動はリサイタルはもとより、学校訪問コンサート、病院や介護施設等多岐にわたる。2011年3月11日の東日本大震災以降、数多くの避難所・仮設住宅・教育施設等を訪問し、音楽を被災者のもとに届けながら絆を紡ぐ活動を展開している。



**Yui Sakurai** **櫻井 唯雲**

東京都出身。2011年朗読劇「継志一板機での戦争を語り継ぐ」、2012年「継志一その武、板橋からの戦争を語り継ぐ」に参加。2013年「南三陸の詩一思いはやがて歌になる」を公演。寄り添い支えるということは、自分自身が寄り添い支えられることであると実感した今、被災者から復興者となった現地の友人たちと手を取り合い、長く語り継ぐという支援を実行中。



**Toshiyuki Minamoto** **源 敏一**

1955年生まれ。登米市在住。登米市内の旧町に残る民話、実話、逸話などの題材を掘り起こし、新しい視点を加えた原案を公募して、脚本からスタッフ、キャストに及ぶ総勢150名のメンバーで組織し開催される「登米市民劇場〜夢フェスタ水の里」に2009年からキャストとして参加。2011年には主役を演じる。震災復興には全国から訪れるボランティアを影ながら支援してきたこともあり、自分自身出来ることは些細であっても被災された方々の誰か何かの力の足しになればと強く思っており、今回の参加となりました。



**Ayako Kikuchi** **菊地 あや子**

1959年生まれ。宮城県登米市在住。元バスガイド。登米市で開催されている市民劇を観て感動し自らキャストを志望して2009年から出演しています。舞台は一発勝負なのでやり直しはできません。その分プレッシャーもあるのですが、何よりも終演に見られる観客の方々の満足そうな笑顔が忘れられません。人の心を、私の演技で届けることが出来れば幸いです。被災した方々の心に少しでも勇氣を届けるべく力いっぱい演じたいと思います。

**演目紹介** 「南三陸の詩 一思いはやがて歌になる」 当たり前の日常が、非日常に変わったあの日。平凡な毎日の繰り返しこそが一番の安らぎであったと気付いた時、人は何を思うのか。行き場のない心の叫びを、宮城の俳優陣が語ります。



**劇団仙台ローズ** **三谷 青子** Shuku Mitani

劇団仙台ローズ代表。震災で活動停止状態だった劇団を立て直し、舞台「三月革命」を演出家の渡邊八房と共に企画した。様々なバカリスから指導を受け、現在は舞台の歌唱担当として欠かせない存在となる。特に代表曲「帰郷」は、横浜公演でも熱唱されるほどとなった。代表作「三月革命」三島典子役



**劇団仙台ローズ** **佐藤 優花** Yuka Sato

劇団仙台ローズ創設メンバー。ヒロイン役からコメディエンスまでこなす。近年は朗読劇などで県外の活動が多い。東日本大震災では実家が沿岸部にあった為、全壊。肉親を失うも被災者としての想いを語りついでいこうと関連した舞台に積極的に参加する。代表作「天国と地獄」マリア役「京都狂乱」安倍宿禰晴明役

**劇団仙台ローズ**

劇団仙台ローズは、探偵小説家・故渡辺啓助氏のもとで活動していた渡邊八房が、「市民ミュージカルのための団体を作ろう」と2007年に設立。これまでに20本近くもの上演を行なっている。近年は東日本大震災は、被災者の視点から表現するべきだと、舞台「三月革命」を上演。2013年には横浜公演を行い、年末には名古屋公演を予定している。

**演目紹介** 「おんなたちの見た3.11 ~被災者の見た東日本大震災~」 劇団仙台ローズでは、被災直後から復興支援のための活動をおこなってきました。現在は、被災者として内側からの目で観て感じたものをミュージカルや朗読会などにして、全国で公演を行なっております。今回は「南三陸町からの手紙」の朗読を致しますので、ぜひ「あの時」を感じていただければと思います。



**宮城県詩人会** **大林 美智子** Michiko Obayashi

総合文芸誌「文芸東北」を経て、「杜詩の会」で詩を学び、現在詩誌「ゆずりか」同人、日本詩人クラブ会員。詩集「アリスロー」(詩学社)、「プラムスの続きを」(水に舎)今夏、火力発電所に万の事故があった場合は、東北も計画停電があるとされています。火力発電所が事故を起こしても、一部の町ごと避難したまま、何十年も帰れないということはないと思うのですが。



**宮城県詩人会** **金子 忠政** Tadamasa Kaneko

福島県生まれ。宮城県育ち。高校教員。「朝鮮学校無償化除外反対アクションロジ」参加。詩集「蛙の域、その先」(土曜美術社)



**宮城県詩人会** **佐藤 洋子** Yoko Sato

母方が沖縄。その母がふいに使う言語はうたのようなものであるが不可解。それはわたしの深くで想像力と思考に影響しているらしい。詩集「(海)子、ニライカナイのうたを織った」第25回山之口褒賞受賞。「呼ぶこという鳥がいて」詩誌「a's」編集発行。共演/照井秋助(ギター)バンド活動を経て2008年からソロで活動



**宮城県詩人会** **武田 こうじ** Kouji Takeda

1971年生まれ。仙台市在住。詩集の刊行。ポエトリリーディングを各地で展開している(主な開催場所:仙台市文学館・仙台市天文台・八木山動物公園など)。また詩のワークショップや読みみかせを病院や学校で開催している。現在3校目の校歌を作詞中。河北TBCカルチャーセンター講師。



**宮城県詩人会** **竹内 英典** Eisuke Takeuchi

仙台市生まれ。「ひびき」同人。詩集「死者たちのとき」「影」



**宮城県詩人会** **西田 朋** Tomo Nishida

本名・及川とも。1943(昭和18)年、仙台市生まれ。白石市で育ち、生活の基盤を角田市に持ち、現在に至る。日本詩人クラブ会員、長岡★堀口大学を語る会会員、宮城県詩人会会員、宮城県芸術協会会員。「海棠」主宰。詩集「閉ざされた記憶」「雨になる夜」



**宮城県詩人会** **原田 勇男** Isao Harada

東京生まれ。岩手で育つ。早大卒。詩集「北の旗」「炎の樹」「火の奥」「サード」「エリック・サティの午後」「夢の漂流物」(画・上野憲男)「水惑星の北半球のまはで」「何億光年の彼方から」「炎の樹連綿」。日本現代詩人会・日本文藝家協会会員、日本現代詩歌文学座評議員、宮城県詩人会会長、宮城県芸術協会会員。



**宮城県詩人会** **日野 修** Osamu Hino

宮城県詩人会会員、紙芝居屋ももたろう会員でサービス、町内会、子供会、幼稚園、企業イベント等で公演中。今年も「第2回詩のボクシング」仙台大会IN宮城県。震災被災地心の復活大会9月8日(土)開催決定。ハルモニカ演奏、たまに演劇に役者として参加舞台を楽しんでいます。



**宮城県詩人会** **渡辺 通子** Michiko Watanabe

俳人協会会員。国際俳句交流協会会員。ほの会会員。句集「未来都市」(牧羊社)。「鴻志」(花神社)。合同句集「ほ」1~12号。

**仙台市立金剛沢小学校 合唱団**

開校当時より発足し、活動を続けている合唱団です。現在の団員は3~6年生の33名。各種依頼演奏、NHK全国学校音楽コンクール、TBSこども音楽コンクールでは全国大会にも出場するなど、その歌声を響かせ続けています。震災以降は、「私たちができることは、元気な笑顔と歌声を届けること」を目標に、復興コンサートを続けています。

**仙台市立西多賀中学校 合唱愛好会 "Ami Choeur"**

金剛沢小学校の進学先の中学校ですが、合唱部がなく、歌い続けたいという熱い思いから震災直後の4月に発足した合唱愛好会です。たくさんの方の復興コンサートに参加し、各種コンクールにも出場。東北大会、全国大会への出場を果たしています。フランス語でAmiは仲間、Choeurはコーラス。歌、合唱大好きな私たちの歌をお楽しみください。

**Junior&Youthコーラス "Raw-Ore"**

結成8年目を迎える、小学生~28歳までの幅広い年齢層で構成された合唱団です。個人の技術を磨きつつ、笑いの絶えない練習を重ね、ハルモニカの持つ魅力を大切に歌っています。昨年は全日本合唱コンクールに初参加、東北大会出場を果たしました。今日は混声合唱の魅力と言葉に思いを込めた私達らしい表現をお届けできるよう、頑張ります。

## 「南三陸の黄金」について

震災から一年半経過した被災地の現状を描く為に、2012年9月に南三陸町を訪れました。

津波により町のほとんどが消失して、建築物の基礎などの瓦礫だけが残り、それを生い茂った雑草が覆い隠していました。

町の中心部だったと思われる場所にぼつんと立つ、鉄骨だけになった防災庁舎の内部の空洞と、ひとつの町がごっそりとなくなった空洞感。この2つの物理的な消失が重なり合い、作品のイメージができあがっていきました。

夕焼けの光を受けて一面が黄金に輝いている状景に、この土地本来の美しさと、故郷再生への希望を表現した作品です。



《南三陸の黄金》2012年 5.4m×16.4m

### ※ Profile [ 作者プロフィール ]



#### 加川 広重 Hiroshige Kagawa

1976年宮城県蔵王町生まれ。2001年武蔵野美術大学油絵科卒業。2003年より大画面の水彩画の制作を始め、せんだいメディアテークなどで「加川広重巨大水彩展」を計10回開催。2009年に仙台市天文台で巨大な星座図を発表。2012年に改訂された宮城県造形連盟著「美術資料集」に作品掲載。震災後は2011年6月にチャリティー作品展を開催し、売上金全額の約23万円を寄付。2012年1月に「雪に包まれる被災地」を発表。2012年8月には、同絵画を舞台背景に様々なアーティストが震災への想いを表現するイベント「かさねがさねの想い」を主催。2013年3月、アートサポートセンター神戸主催、神戸市共催により、デザインクリエイティブセンター神戸【KIITO】にて「雪に包まれる被災地」を展示。平成24年度宮城県芸術選奨新人賞。

——— 同時開催 ———

## 加川 広重 小作品展

せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア  
「かさねがさねの想い2」会場内にて

■ Open 10:00 ■ Close 18:00

入場  
無料



《PEARL RIVER》2013年

### せんだいメディアテーク

tel 022-713-3171 fax 022-713-4482 〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1  
2-1, Kasuga-machi, Aoba-ku, Sendai-shi, Miyagi-ken 980-0821

#### ※ Access [ 交通のご案内 ]

- 地下鉄** 仙台駅から泉中央行きで3分、勾当台公園駅下車。「公園2」から徒歩6分。
- バス** 仙台市営バス仙台駅前29番(荘内銀行前)のりばから「定禅寺通り市役所前経由交通局大学病院」行きで約10分、メディアテーク前下車。
- SUBWAY** get off kotodai station after 3-minute ride from sendai station on the subway bound for izumi-chuo. 5-minute walk from the exit "koen 2".
- BUS** approximatery 10-minute ride from JR sendai station on a bus bound for "kotsukyoku daigaku byoin via jozenji-dori." Get off at sendai mediatheque stop.

#### ※ Map

